

島原市における取組について

 島原市





島原市について

長崎県南東部に位置する島原半島の東側。

- ・ 島原城、日本名水百選に選ばれた湧水、温泉など豊富な観光資源。
- ・ 平成2年からの雲仙・普賢岳の噴火災害から復興。

概要

面積： 82.78km²

人口： 47,402人(平成26年12月末現在) ※昭和55年のピーク時は58,890人

総生産額： 約1,400億円(平成23年) ※長崎県の約3.2%に相当

入込客数： 約140万人(平成25年) ※雲仙・普賢岳噴火前(平成2年)の7割程度

郷土料理： ガンバ(ふぐ)料理(湯引き、煮付け)
ガネ(カニ)料理、寒ざらし、具雑煮
手延べそうめん



古川隆三郎 市長

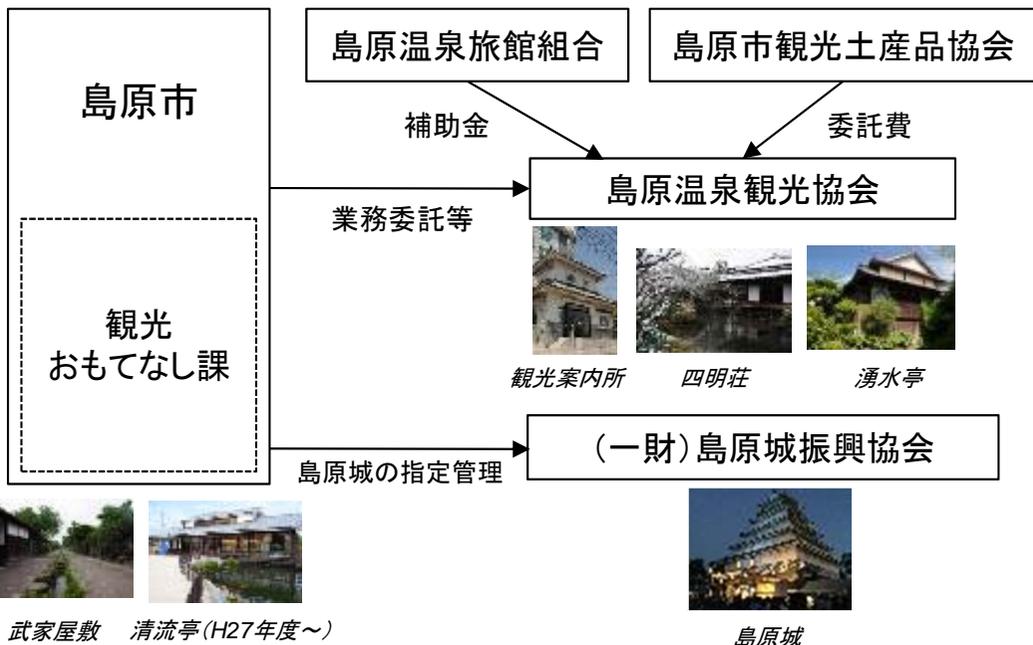




島原市内観光組織の一元化について①

- 島原温泉観光協会、島原城振興協会などの市内観光団体を統合・移行し、「株式会社島原観光ビューロー」を設立(平成28年10月より稼働)。観光プロモーション、物販、施設運営を一元的に担う。

従来(～平成28年9月)



平成28年10月～



- 観光施設の運営者、プロモーション・イベント等の実施者が多岐にわたるため、島原市内の観光全体をマネジメントする組織が不在。
- まつり、イベントが多く、市役所の観光担当課のリソースが運営に割かれている。一方で、市外からの来場者数の割合、観光消費等に係る定量的な分析が不足しており、イベントの優先順位付けが困難。
- 島原城の指定管理先が長年固定されており、活用の選択肢が限定的。また、島原城の収益が他の施設管理などに活用できていない。

- 観光PR組織の統一による面的な観光客誘導(島原城から周辺施設への送迎サービス、各施設のスタッフが連携した新たなサービスによる観光客の誘導等)
- 島原城の収益最大化(入場料収入の増加、コストの削減等)により他の観光施設の管理・運営費に回すことが可能(市の負担軽減)
- 林立するまつり・観光イベントを整理・統合(参加者数、コスト見合い、市外からの来場者の割合、来場者の消費額等に応じたまつり・観光イベント開催の最適化)
- 観光プロモーションと物販販売との機動的な連携
- 観光・経営のプロによる民間の知恵を活用した観光プロモーション等

